

長町・歩いて楽しい街並みづくり検討会  
第1回 交通ワーキンググループ 議事概要

- 1 日時 令和6年7月17日(水) 15時30分～17時
- 2 会場 太白区役所4階 第2・第3会議室
- 3 出席者  
委員：阿部勝己委員、境潔委員、佐々木隆委員、松木晃一氏（柴山隆委員の代理）、  
鈴木俊介委員、泊尚志委員（WG座長）、本間俊行委員、渡邊啓委員  
オブザーバー：柿沼敏万氏、関澤京子氏  
コーディネーター：氏家滉一氏  
長町商店街連合会（事務局）：加藤隆氏  
太白区（事務局）：太白区長、まちづくり推進部長、長町地域活性化推進室長、  
長町地域活性化推進室 藤森主査、船水主査
- 4 次第・資料
  - 1 開会
  - 2 座長挨拶
  - 3 ワーキンググループの位置付けについて【資料1】
  - 4 ワーキングの内容について  
・現状と課題等【資料2】  
・交通ワーキングの進め方【資料3】
  - 5 意見交換
  - 6 閉会

## 1 開会

- <名簿により出席者紹介>
- <太白区長より挨拶>

## 2 挨拶

- <泊座長より挨拶>

## 3 ワーキンググループの位置付けについて

- <事務局より資料1に基づき説明>

## 4 ワーキングの内容について

- <事務局より資料2、3に基づき説明>

## 5 意見交換

泊座長：

- 意見交換の前に何について意見を交わすかを整理したい。交通ワーキングで何を決めていくかはまだ資料上明確ではない。考え方としては、既に利活用の方針や街並みをどのような姿にしていくかがある程度アイデアとして出ていて、それが達成できるかどうかを交通の側面で検証していくという発想と、利活用の方針があまり固まっていない中で、交通の面でどこまで可能性を見出せるのかという発想の議論もある。方針があれば、事務局から教えていただきたい。

事務局（室長）：

- 利活用ワーキングの検討や歩行者の安全・安心の観点を踏まえつつ検討を進めていくのが交通ワーキングの基本的な形だと思っている。一方で、非常にスピード感を持った取り組みであることから、交通ワーキングでも課題の掘り起こしの検討を同時並行で進めていただければよろしいのではないかと。
- 第1回利活用ワーキングでの検討状況については、次回の交通ワーキングで提示させていただきたい。

泊座長：

- この交通ワーキングで決めることは、今の段階では必ずしも全てが明確ではなく、利活用ワーキングの議論を進める中で同時並行的に位置付けも明確になっていくとともに、それを想定して進めていくということ。
- 交通ワーキングの流れについて確認すると、まずは課題意識の共有から始まり、それを解決していく道筋やアイデアについても幅広く検討していくことになるかと思う。
- 本日は関係者の皆様から、どのような問題意識をお持ちか、将来の姿をどう考えているか等について幅広くご意見をいただき本日の成果としたい。

本間委員：

- 経験上、先に形を決めてやろうとすると大体上手くいかない。
- 歩行者が安全に歩くための自転車の動線分離や道路上での利活用等をどのような形で目指すのかが具体的になれば検討すべき課題はたくさん出るが、それがないと意見も言いづらい。
- 社会実験をする中で、どのようなものにフォーカスをあてて実施していくのかを少なくとも示して欲しい。

事務局（船水主査）：

- 今回は幅広く現状の課題を提示いただいた上で、第2回交通ワーキングで社会実験について具体的なものをお示ししたい。
- 自転車の観点で、地域からの安全・安心を求める声は大きいですが、対策は色々な方法がある。この長町で何が良いのかを社会実験を実施しながら検証していきたい。

本間委員：

- 社会実験において渋滞させたくないから信号機の秒数を変更してほしいという要望には、基本的に対応できない。

泊座長：

- この交通ワーキングは交通の議論をする場だが、具体的な形を議論しやすい段階にはないこともあり、テクニカルなこと以外にもお話をいただきたい。
- 委員の発想として、どのような歩いて楽しい街並みを想定されているかなどをお話いただきたい。

阿部委員：

- 商店街の現状として若返りが図られていることもあり、100年後まで見据えたしなやかなまちづくりをしたいと考えている。
- 今までの日本社会は車中心だが、今回は歩いて楽しい街並みづくりとして、子供たちや次の世代に対し、長町は良い街だという思い切ったものができればよい。

泊座長：

- 交通に関する意見や特に気になっている点はあるか。

阿部委員：

- お客様からは、歩きづらい、狭い、危険という声がある。特に増えてきた子育て世代から歩きづらい、まちを回遊しづらいという声がある。
- 長町の下町の魅力をよりアピールでき、わくわくする道路づくりをお願いしたい。

#### 境委員：

- 現地を歩いてみて、お店が前より少なく、住宅や中高層のマンションがたくさんあるという印象を受けた。
- 歩道に横断防止柵があるが、横断場所がもっと欲しいという要望もあるので安全性との整合は気になる。
- 夕方近くは若い世代の自転車と下校中の子供たちが多かった。

#### 佐々木委員：

- 定禅寺通、青葉通と比較して自転車交通量は間違いに多い。自転車とバスの安全性を確保する交通処理ができれば良いモデルケースになると思う。
- 他地域でも、自転車がガードパイプの切れ目で車道と歩道を繰り返し出入りし、バスの運行上危険が生じていることもあり、安全なすみ分けができればよい。
- バスの利用を促すような社会実験が行われると非常にありがたい。
- 平日の朝の渋滞を避ければ、それほど渋滞はせず、路線バスへの影響もさほどはないと考えている。

#### 松木委員代理：

- 道路構造や交通をどのように変えていくかを考えていくのだと思うが、その中でタクシー乗り場を変更する場合は、色々な検討課題があると思っている。

#### 鈴木委員：

- にぎわい創出は大歓迎だが、バスのお客様の負担になるような整備であれば立ち止まって考え直していただきたい。
- ビジョンでは、公共交通がどのようにあるべきかが書かれていないので、地域の皆さんが、バス・タクシーをどのようにしたいかという考えが分からない。長町の前後の地区も含めた地域の皆さんの意向を確認してほしい。
- 社会実験をやってみて、渋滞で路線バス事業者・利用者には迷惑がかかり大失敗だが、商店街は賑わいがあって大成功となると困る。まず、交通環境をどうやって改善するのかが入口だと思う。
- 現状の整理として、公共交通の利用状況や仙台市の関係計画の整理、整合の確認もお願いしたい。

#### 渡邊委員：

- 将来的にどのような商店街を目指すのかがやはり大きいと思う。
- 例えば車線を狭めるような整備を目指すとなると、商店街の問題だけではなく色々ところに影響が出るので、周辺道路も含めて幅広くケアする必要がある。

#### 泊座長：

- 道路構造の議論の前にどのような交通の姿を考えるかが先だと思う。
- バスやタクシー、公共交通は、この歩いて楽しい空間づくりの取組みに親和性の高いものだと考えており、（旧国道4号を）もっと走ってもらい、市民にもっと利用してもらえようようにしたい。
- 空間をどのように歩きやすいまちにしたいのかを共有して、利活用ワーキングや交通ワーキング、その他の街の方のご意見等を踏まえながら形成していき、それを実現できるような交通の姿と、それを支える道路空間の整備を階層的に有機的につなげて議論していければと考えている。

柿沼氏：

- どのような歩いて楽しい街並みを目指すかという方向性が見えれば、交通をどう組み立てていくかという具体的な話になるので、2つのワーキンググループが連携して進めてほしい。

関澤氏：

- ターゲットは、隣接しているあすと長町エリアの子育て世代や従業員だと思うが、そのような人たちの移動データ等も提供していただくと、課題や検討方針が見えてくるのではないかと。
- 商店街と公共交通の利用をつなげるような取組みを今後検討していただくとよい。

泊座長：

- 第2回交通ワーキングは、利活用ワーキングでの目指すまちの姿の意見や、これまでに商店街の皆さんや利用者の皆さんからいただいているご意見などを総合して、どのような交通面での姿を考えていくのかを議論したい。
- また、色々な整備の可能性があることを議論の中で見える形にして、その中で社会実験を見据えた具体的な議論をしていくという進め方を想定している。
- 次回以降のワーキングの会場について、現地の交通も感じられる長町商店街に近い場所も検討してほしい。

## 6 閉 会

(17時終了)